

式 辞

北海道の最高峰旭岳は未だ真っ白な雪に覆われておりますが、麓では春の到来を感じる時節となりました。この佳き日に令和二年度北海道東川高等学校入学式を挙げていただけますことは、大きな喜びであります。

本日の入学式は、現在世界中で大きな課題となっている新型コロナウイルスの影響から、規模を縮小し、時間も短く実施しております。ご来賓や保護者の皆様にはご列席いただく、松岡市郎東川町長様や高橋ひろみ本校PTA会長様からの祝辞も印刷して渡すのみとなっております。生徒他関係者の健康を守るためこのような形での実施としております。

保護者の皆様は、残念ながらこの場にはいらっしゃいませんが、お子様が義務教育を修了し高校生となり、感慨もひとしおのことと拝察申し上げます。お子様のご入学をお祝い申し上げますとともに、これまでご養育にあられたご努力に敬意を表します。

さて、ただいま入学を許可しました80名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。自らの意思で本校に進学された皆さんの入学を心から歓迎します。皆さんは今、これから始まる三年間の高校生活に向けて期待と不安を胸に抱いていることと思いますが、皆さんが有意義な毎日を送ることができるよう、二点お話しします。

一つ目です。当然のことですが、「学校は楽しいところ」でなくてはなりません。ただし、この楽しさは与えられるものではなく、自分たちが行動することから生まれるものです。また、ゲラゲラと笑うようなことだけが「楽しい」ということではありません。自分の将来像や目標を決めて、それに向かって努力をする。そのために課題ができ、課題を解決するために努力をする。挑戦をする。その過程では、辛いとか苦しい、歯を食いしばる、という場面もたくさん出てくるでしょう。実は、そういった困難を乗り越える努力が本当の意味での「楽しさ」となる場合がたくさんあります。

加えて、その場では、期待する結果が出ないこともあります。しかし、目標に向かって努力すること自体が非常に大切な経験です。その努力が一年後、場合によっては高校を卒業し、何年も経てから生きてくことも十分あり得るのです。「努力は決して裏切りません。」まずは行動すること、挑戦することが大切です。辛いときには、保護者や先生、友人が助けてくれることもあります。ぜひとも、みんなでチャレンジマインドを発揮し、本当の意味での「楽しい学校」を作ることを期待します。

二つ目です。学校は「小さな社会」です。社会とは決して一人で成り立つものではありません。他の人たちと協力し合わなければ成り立たないのです。先人達は自分も周囲の人々もお互い気持ちよく暮らせる社会にするために、ルールやマナーを作ってきました。社会で生きていくためには、自分の力を高めていくことと同時に周囲の人々を認めて、例えば考え方が異なっても、話し合ったり、議論をしたりして、違いを認め、相手を認めていくことが必要です。相手のことを思い遣った行動も大切です。本校は福祉教育を非常に大切にしております。本校で福祉マインドを磨いて欲しいと考えています。

二点お話ししましたが、本校の校訓「美風慣行」や「自律創造」は今話したようなことが込められております。皆さんにとってかけがえのない楽しい学校をつくり上げて欲しいと思っています。

終わりになりますが、保護者の皆様の大切なお子様をお預かりするに当たり、私ども教職員一同、学校教育のプロとしての使命感と責任感を持って、一丸となって教育活動に努めてまいり所存であります。本校はお子様の健やかな成長のために、義務教育と同様、高校におきましても学校と家庭とが理解し合い、協力し合うことが大切であります。保護者の皆様よりの、力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の皆さんの大いなる健闘を心から期待し、式辞といたします。

令和二年四月八日

北海道東川高等学校長 元 村 治 郎